

一般社団法人 倫理研究所
平成 30 年度
年次報告



2017-2018
ANNUAL REPORT

CONTENTS

4 活動トピックス
… 沙漠緑化事業の推進
6 … 「地球倫理推進賞」の贈呈
7 … 丸山奨学金による支援
… 東日本大震災教育支援基金
8 … 「サンパウロ倫理法人会」設立
… 「オレンジカウンティ倫理法人会」設立
9 … 「倫理経営模範企業」を育成
10 … しきなみ子供短歌コンクール
11 … 他団体への寄付・協賛
… ホームページを全面リニューアル
12 倫理の研究と成果の発信
14 家庭倫理の普及
16 企業倫理の普及
18 書道や短歌などの文化活動
19 海外の普及
20 倫理を学ぶ多彩なセミナー
22 出版物の刊行
25 組織概要
26 … 家庭倫理の会・倫理法人会拠点数
27 … 主要施設・沿革

倫理運動創始72周年を迎えた平成30年度も、引き続き「地球倫理の推進」「日本創生」をスローガンに掲げ、3年目となる基本方針「さらなる「新」に挑む」のもと、計画通りに諸事業を展開しました。

研究部門では、対外的に「倫理文化研究センター」と称して3年目となり、倫理化学の構築を主軸に純粹倫理と日本文化の本質に迫る研究を推進しました。

また、家庭教育を推進する外部団体との交流も深めました。研究成果は倫理研究フォーラムや定期刊行物で発表するとともに、国内・海外での国際会議、研究会などで積極的に発信しました。

普及部門の生涯局では、「ともに生きる」をテーマに家庭倫理講演会を全国189カ所で開催する一方、「子育てセミナー」を全国で1668回、「青年

フォーラム」を全国で4カ所、「シニア弁論大会」を全国で18回開催しました。青少年・子育て世代・シニア世代、そして公教育・民間教育を効果的につなぐきめ細かい教育活動を行い、健全な家庭づくりと地域の教育力向上に努めました。

文化活動は、誰でも参加できる地域密着型の活動を展開。また「第13回しきなみ子供短歌コンクール表彰式」を約700名の参加

者を得て都内で開催しました。本事業は伝統文化の継承だけでなく、子供たちの国語力や感受性などの向上にも貢献する公益事業として、文部科学省をはじめ教育関係者からも高く評価されています。

普及部門の法人局では、組織基盤の強化を図りつつ、大目標である倫理法人会会員数10万社への足固めとして、揺るぎない7万社体制の構築に努め、会員

柔軟かつ堅固な組織づくりをめざして
——さらなる「新」に挑んだ平成30年度。——

一丸となって倫理経営の普及・教育に尽力しました。倫理経営講演会は「大転換の時代―つねに活路あり―」をテーマに全国686カ所で開催。倫理経営の学習・実践・普及の活動拠点である倫理法人会数は706カ所、期末時の会員企業数は7万1268社に達しました。また「倫理17000」ライセンスは、13社が新規認定を受け183社となりました。

教育部門の富士教育センターでは、受講生一人ひとりの心に純粹倫理を強く働きかけ、各人が属する共同体をより豊かにする。家庭倫理、企業倫理、青少年育成の各種教育セミナーを実施したほか、海外からの受講生の増加に対応し、各国

の実情に応じた融通性の高い研修を実施しました。なお当年度は、施設改修3カ年計画の最終年度に当たり、敷地内営繕改修および新設工事を実施したほか、印野財産区より新たな土地の提供を受けるなど、受講環境のさらなる充実を図りました。

出版部門では、月刊誌『新世』の「新世言」から33篇を抜粋した『ともに生きる』、幼児から小中学生の子を持つ親からの相談に回答する『親が変わる 子供も変わる』など、純粹倫理を根底とした新刊本を刊行しました。また、定期刊行物も計画通り発行できました。そのほか、前年度の新装丁版（中判）に引き続き、新たに5色の新装丁版

『万人幸福の栞（小判）』を刊行しました。

広報活動では、「第21回地球倫理推進賞贈呈式」を都内ホテルにて512名の参加者を得て開催しました。「東日本大震災教育支援基金（りんりん基金）」の奨学サポートは、平成25年度から28年度にかけて認定した四期総勢48名のうち22名の給付が満了しました。また、倫理運動をより分かりやすく伝えるべく、スマートフォンやタブレットにも完全対応した新ホームページを公開しました。

国際部門では、クブチ沙漠に第67次沙漠緑化青年隊を、「地球倫理の森ウランブハ」に第68次、69次隊を派遣し、植林数は総計

43万46本となりました。また、アジア諸国の留学生7名、中国・内蒙古大学学生57名に「丸山奨学金」を支給。北京では「日中倫理交流30周年の集い」を開催しました。

海外普及も躍進し、米国では前年度の「南カリフォルニア倫理法人会」に続き「オレンジカウンティ倫理法人会」が、ブラジルでも「サンパウロ倫理法人会」が相次いで誕生するなど、国際普及の拠点がアジアから北米、南米へと拡充しました。

本年次報告では、平成30年度の事業について、写真や図表を多用して包括的にご紹介します。



地球への感謝を深めながら、日中の青年が協同して汗を流した



涙しながら別れを惜しむ日中の青年たち



記念碑をバックに笑顔の花が咲く



苗木が根付くよう折りを込めて穴を掘る

沙漠緑化活動を通した、
地球倫理の実践および日中友好交流を
続けています。

平成30年度
活動トピックス

社会教育団体として、
さまざまな生涯学習活動を
展開しました。



地球倫理の推進

01 沙漠緑化事業の推進

平成30年4月29日から5月5日にかけて、第67次沙漠緑化青年隊を中国内モンゴル自治区恩格貝クブチ沙漠へ派遣しました。日本隊は青年会員35名に倫理研究所のスタッフ7名が同行。中国隊は内蒙古大学など六つの大学から日本語を専攻する学生と教師、教育機関・天真園の生徒など計68名、総勢110名の参加となりました。

はじめに隊員たちは、講義を通して「地球倫理」とその推進の意義について学び、恩格貝の沙漠開発の功労者で鳥取大学名誉教授の故・遠山正英氏のドキュメント映像を鑑賞して、植林活動や日中交流の意義を再確認しました。

その後、2日間にわたって日中の青年が協同で植林・育林活動を行ない、合計

1300本を植林しました。翌日は通算11回目となる「日中青年沙漠交流会」を開催。日中混合の10グループに分かれて「私の家族」をテーマに話し合い、その内容を各グループの代表者が発表しました。発表会の最後には、恩格貝管理委員会の隋宇華主任から、長年にわたり植林と日中青年交流に尽力した倫理研究所へ表彰状が贈られました。



【参加した青年の声】
「強風の中、日本人も中国人も顔まで砂まみれになって木を植えました。目の痛みに耐えながら作業しているうちに、『国籍に関係なく、同じ地球に住んでいる人間として、環境問題や沙漠のことを考えるのが当たり前なのだ』と感ずることができました」(20歳女性)
「植林では1メートルも穴を掘らなければならず、強風だったり、掘った穴に砂がこぼれてきたりと、とても大変でした。でも、いざ木を植えてみると、ほんの少しでもいいから沙漠の

緑化に貢献しているという気持ち湧いてきました。しっかりと働いてから食べるご飯は美味しく、大学生活でだらだらと過ごしていた日々がもつたいたいと感じました」(22歳男性)

また、「地球倫理の森ウランブハ」に第7次隊35名、第8次隊39名(通算68、69次隊)をそれぞれ6月3日から9日、7月8日から14日にかけて派遣。1999年の事業開始からの通算参加者は延べ2493名となり、総植林数は43万46本となりました。



地球倫理の推進に、実践面で貢献している団体を顕彰しました。



02 「地球倫理推進賞」の贈呈

「第21回地球倫理推進賞」贈呈式を、平成30年3月29日、都内ホテルで開催しました（後援／文部科学省、産経新聞社、全国民間放送ラジオ局37社）。応募総数55件（国際活動部門17件、国内活動部門38件）の中から、厳正なる審査・選考を経て、国際活動部門は「ムリンデイ／ジャパン・ワンラブ・プロジェクト」（ルダシングワ真美代表）、国内活動部門は「NPO法人どんぐり1000年の森をつくる会」（平原洋和会長）を表彰しました。併せて、文部科学省生涯学習政策局社会教育課・丹野史教課長補佐から文部科学大臣賞が贈られました。



ルダシングワ真美氏は、語学留学の際に、内戦から逃れていたガテラ氏よりルワンダ共和国の惨状を聞き、紛争に巻き込まれ障害を負った人々への支援を決意。5年の歳月を費やし日本で義肢装具士の国家資格を取得すると、1996年にルワンダでガテラ氏とともに団体を設立。これまでに延べ8300人の障害者に義肢装具・杖・車椅子などを無償で製作・配布してきたほか、職業訓練の実施や障害者スポーツの発展にも関わってきました。

「どんぐり1000年の森をつくる会」は、どんぐりの実から芽生えた照葉樹の苗木を植樹する活動を実施。宮崎県に流れる大淀川の水質改善と流域の森林再生をめざし、1株500円で「どんぐり株主」と称する募金活動を展開しています。株主延べ13万人に支えられ、国有林など21カ所62ヘクタールに約15万本を植樹しました。2010年に「どんぐり村こども自然塾」を開設し、さまざまな環境体験行事の提供にも力を注いでいます。

03 丸山奨学金による支援

平成30年度も「丸山奨学金」200万円を中国内蒙古大学（57名）に支給しました。併せて3カ国7名のアジア諸国の留学生（丸山奨学生）にも奨学金総額550万円を支給し、勉学を支援しました。丸山奨学生は将来日本との学術・

文化などの友好交流の架け橋として期待される人材であり、各自の専門研究テーマを探索するとともに、「地球倫理」を富士高原研修所で体験学習し、日本の精神文化の理解を深めています。

平成30年度 丸山奨学生（7名）

国籍	研究機関	研究テーマ
中国	大阪大学大学院	日本語複合動詞の成立条件
中国	東北大学	日本語動詞の派生機能
中国	オークランド大学	日本文学、ワールドビジネス
中国	神戸大学大学院	日本語・中国語の対照研究
中国	大阪大学大学院	近世の東照宮信仰に関する総合研究
カザフスタン	筑波大学	日本語教師の自律学習
イスラエル	大阪大学大学院	日本の製薬政策と規制改革



内蒙古大学で行なわれた贈呈式には丸山理事長も出席。大学生一人ひとりに奨学金を贈呈した。

04 東日本大震災教育支援基金（りんりん基金）

「東日本大震災教育支援基金」は、東日本大震災により両親や家族を

失った遺児や若者たちの勉学を援助し、教育環境の整備に役立てることを目的として、平成23年4月に開設されました。基金は二つの分野への支援として活用され、開設以来の支援総額は4億8261万円に上ります（平成30年8月31日現在）。

「タグボート支援」

被災地における子供の教育支援活動を行なうボランティア団体を対象とした支援です。平成23年11月より支援を開始し、以来、23団体に計1億3963万円を支給しました。平成28年3月11日をもって寄付の受付を終了し、平成29年度をもって支援を完了しています。

「奨学サポート」

被災による経済悪化によって大学進学が困難となった高校3年生を対象に、①入学支度金②授業料③生活費を給付。返済義務のない奨学金制度として、第1期生（平成25年度認定）から第4期生（平成28年度認定）まで計48名の大学進学・大学生活をサポートしています。



東日本大震災教育支援基金

海外および国内における教育支援



亜細亜台湾企業倫理促進会では倫理経営の模範企業の育成に力を注いでいる

台湾に広がる倫理経営の輪

07 「倫理経営模範企業」を育成

台湾における倫理経営の認知度を高めるため、倫理経営の模範企業育成に取り組みました。

「台湾KISSME化粧品」(社員250名)は、台北市で倫理運動を推進する亜細亜台湾企業倫理促進会が主催する「倫理経営模範企業育成研修」を受講し、日常の基本動作である「7アクト」の体得と自社オリジナルの活力朝礼の創造に取り組みました。同社は平成29年6月から5回にわたり講義や朝礼実習を受講。その後、活力朝礼発表会、倫理経営研修を経て、平成30年3月、第1号となる倫理経営模範企業に認定されました。

李琳媛社長は「研修後、社員の行動が見違えるように変わりました」と語りました。(関連記事19頁)



倫理経営模範企業の認定証を手にする李琳媛社長と内田文朗常任理事(写真中) ヒロ大島理事長を筆頭に活気溢れる「亜細亜台湾企業倫理促進会」の会友(写真下)

た。挨拶の大きな声が響き渡り、部署とのコミュニケーションは良くなり、仕事の効率も上がったように感じます。また、自分の職場だけでなく共有スペースの整理整頓が行き届いて、社内全体が明るくなりました。日々の倫理実践の重要性や有効性を社員一人ひとりが噛み締めていることを嬉しく思います」と倫理経営の手応えを語りました。(関連記事19頁)



認可書を掲げる須郷清孝会長(左)と、行動旗を掲げるマヌエル幹事長(右)

南米初 & 米国第2の倫理法人会が誕生

05 「サンパウロ倫理法人会」設立

平成29年11月5日、南米初となる倫理法人会「サンパウロ倫理法人会」の設立記念式典が、チボリ・モハレジュ・サンパウロで開催され、日本から祝福に訪れた9名を含め94名が参加しました。

両国の国歌斉唱、経過報告に続いて、倫理研究所丸山敏秋理事長より須郷清孝会長に設立認可書、マヌエル幹事長に行動旗、全役職者に委嘱状が手渡されました。また、来賓の在サンパウロ日本国総領事館の高元次郎領事が祝辞を述べられ、サンパウロ市長より祝電、日本全国および米国、台湾からお祝いのメッセージが届きました。(関連記事19頁)

06 「オレンジカウンティ倫理法人会」設立

平成29年9月9日、倫理研究所USA「オレンジカウンティ倫理法人会」の設立記念式典が、カリフォルニア州オレンジ郡で開催され、地元の日系団体から大勢の来賓が参集、



日本の会友9名を含め95名が参加しました。式典では丸山理事長よりギラム理事長会長に設立認可書、斎藤宏幸事務長に行動旗が手渡され(写真左)、全役職者に委嘱状が授与されました。ギラム会長は謝辞で「異国の地では文化、商習慣、言葉の壁を乗り越えるなど、チャレンジすることも多く、生き残るのは並大抵ではありません。そんな中で、当会が設立できたことを心から嬉しく思います」と語りました。(関連記事19頁)

伝統文化教育への取り組み



表彰式では大きなスクリーンを用いて受賞者と短歌が紹介され、一人ひとりに表彰状が手渡された

08 しきなみ子供短歌コンクール

「第13回しきなみ子供短歌コンクール」を開催し、全国の小学生6万7350名（1319校）より応募がありました（後援／文部科学省、全国民間放送ラジオ局37社）。都道府県別の予選を経て平成29年12月7日の最終選考会では、東京成徳大学教授・青柳隆志氏、歌人・加藤千恵氏、倫理研究所参事・大木千鶴子氏の3名が特別選考委員を務め、しきなみ子供短歌賞（小学校低学年・中学年・高学年の部）の3名、特選20名、入選359名、佳作561名が選出されました。

平成30年2月25日に「ニッショール」（東京・虎ノ門）で行なわれた表彰式では、受賞者23名と受賞者の家族および教育関係者100名を含む合計700名が出席。しきなみ子供短歌賞の受賞者3名には、文部科学省生涯学習政策局社会教育課課長補佐・丹野史教氏より、「文部科学大臣賞」が授与されました。



左から「しきなみ子供短歌賞」「文部科学大臣賞」に輝いた野口さん、武田さん、北村さん

しきなみ子供短歌賞受賞作品

低学年の部／野口愛翔／鹿児島・2年生
夕がたのひこうきぐものそらのした
じいちゃんのふねとおくゆれてた

中学年の部／武田壮矢／東京・4年生
お母さんがみをみてよこわいかお
兄弟げんかすぐやめるから

高学年の部／北村涼香／東京・5年生
しかられてボタンとドア閉め家を出る
通学路の色いつもとちがう

倫理普及の後方支援として

09 他団体への寄付・協賛

平成30年2月6日、丸山理事長が伊勢神宮を訪れ、「伊勢神宮式年遷宮御造営資金」として100万円を寄付しました。同寄付は、平成8年に丸山が理事長に就任以来、倫理研究所として毎年行なっています。



伊勢神宮からの感謝状を拝受する丸山理事長

究者に対する学術賞の贈呈や研究奨励助成などを行なっている「公益財団法人高松宮妃癌研究基金」「豊前市芸術文化振興事業協賛金」などへの寄付・協賛を行ないました。同癌研究基金には平成6年より、豊前市には昭和63年より毎年寄付を行なっています。



後藤元秀豊前市市長に目録を手渡す丸山理事長

10 ホームページを全面リニューアル

平成30年8月31日、倫理研究所ホームページを全面リニューアルしました。主な内容として、①デザインや構造を一新し、スマートフォンやタブレットからも利用しやすくなるよう、マルチデバイス対応にしました。②情報への導線や階層を見直し、トップページから「家庭倫理の会」「倫理法人会」などの会員活動や、海外展開、富士高原研修所セミナー案内などの情報へダイレクトにアクセスできるようにしました。③入会のご案内、FAQ、おはよう倫理塾会場一覧など、倫理運動に興味を抱かれた方々の「もっと知りたい」という声



パソコン、スマートフォン、タブレットに完全対応したホームページにリニューアル

に定めるコンテンツを追加しました。④掲載情報の保護・管理を強化すべく、全ページに「E.V.S.S.L (Extended Validation Secure Sockets Layer)」による保護を実装しました。

倫理の研究と成果の発信



倫理研究フォーラム in 兵庫では、丸山理事長【右】と寛ボルテール専門研究員【左】が研究発表。トークでは、発表内容を確認しながら、日本文化の再発見の必要性が再度提唱された。

対外的に「倫理文化研究センター」と称するようになって3年目となる研究部門では、研究体制のさらなる充実を図り、純粋倫理と日本文化を中心とする研究を推進・実行しました。また、定期刊行物・出版物・倫理研究フォーラムなどを通して研究成果を広く発信し、倫理の普及・教育・出版に資する知的資産の拡充に努めました。

研究の方向と重点

純粋倫理の基礎的・専門的研究、倫理文化の専門的研究を積極的に推進し、純粋倫理の体系化ならびに「倫理文化学」の構築をめざす研究を行ないました。

倫理文化に関する専門的研究

研究者	研究テーマ
高橋徹	利他性と協調、公共財形成問題と道徳規範、恩送りのゲーム理論的分析等の研究
内田智士	人間の進化とは何かに関する研究、人間の認識における「反転」と、その状態をさらに反転する方法等の研究

研究資料の蒐集と提供

実践体験事例1350篇、研究論文241篇を蒐集・分類整理・保存し、併せて教育・普及・出版の各部門の要望に応じて、情報提供を行ないました。

倫理資料館の運営・管理

純粋倫理の基礎的・専門的研究ならびに倫理文化に関する専門的研究に資する資料の充実化を図り、創始者の遺品蒐集・保存に努めました。
専門図書の蒐集
 倫理・道徳に関する専門図書計1391冊（新刊書1138冊・古書253冊）、丸山敏雄記念文庫1冊、丸山竹秋蔵書56冊、湯浅泰雄記念文庫1冊を受け入れ、分類・整理しました。

研究機関および研究者との交流

「日本家庭教育学会」「人体科学会」「日本国史学会」など諸学会の活動に協賛し、専門家との交流を深めました。道徳教育および家庭教育を推進する関係団体、ならびにその研究者との積極的な交流を図り、国内外の国際会議・研究学会においても研究発表を行ないました。

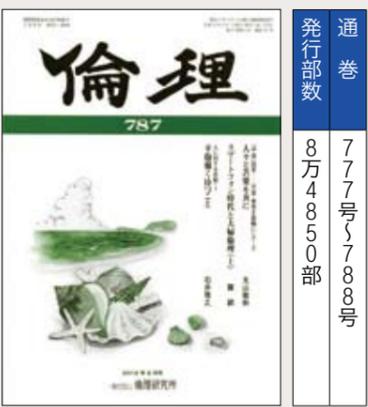
掲載論文

執筆者	テーマ
内田智士	非認知的能力と幸福
松本亜紀	妊娠期の夫婦関係が出産体験に及ぼす影響
石井雅之	ギリシア古典の伝統における忍耐の代表的人物像とプラトンの解釈
巽 穎	「夫婦有別」から「愛情ブラス分業」へ
厳錫仁	元田永孚の思想形成と展開



『倫理』（月刊誌）

純粋倫理の基礎的・専門的研究、倫理文化の専門的研究に関する諸論者を掲載しました。



倫理意識調査の実施

現代社会における自己アイデンティティと社会との関係性を把握するため、「社会のなかの自分」について調査しました。

- ◇調査企画／倫理文化研究センター研究フェロー 海野裕（マーケティングプランナー）
- ◇調査項目／自己アイデンティティの内容および形成要因、アイデンティティ形成に関する志向性、世論・社会的風潮への同調や反応、古今東西の倫理観をまとめた「倫理25」への共感度など
- ◇調査対象／全国15歳以上69歳以下の男女960名

各種研究会の開催

純粋倫理の基礎的・専門的研究に関する研究会（2回）、倫理文化の専門的研究に関する研究会（4回）、研究サロン（4回）を開催しました。なお当年度は、第4回目の倫理文化の専門的研究に関する研究会を、「倫理文化研究センター第2回シンポジウム」として、8月24日～25日の2日間にわたり開催。全体テーマは「自然と人間」で、参加者15名、9名の研究発表と質疑応答、総合討論を行ないました。

研究成果の発信

倫理研究フォーラムの開催

開催日	場所	来場者数	テーマ	研究発表
平成30年7月22日	川口総合文化センターリリア	1062名	日本文化再発見 — 先人の知恵に学ぶ —	① 縄文から平成へ—日本文化の核にあるもの—丸山敏秋 ② 子産み・子育て文化再考—受け継がれてきた日本人の知恵と「ムスコ」 松本亜紀
平成30年6月9日	加古川市民会館	916名	日本文化再発見 — 先人の知恵に学ぶ —	① 縄文から平成へ—日本文化の核にあるもの—丸山敏秋 ② 「知られざる和食」寛ボルテール

開催日	場所	来場者数	テーマ	研究発表
平成30年7月22日	川口総合文化センターリリア	1062名	日本文化再発見 — 先人の知恵に学ぶ —	① 縄文から平成へ—日本文化の核にあるもの—丸山敏秋 ② 子産み・子育て文化再考—受け継がれてきた日本人の知恵と「ムスコ」 松本亜紀

『倫理研究所紀要』（年刊誌）

純粋倫理の基礎的・専門的研究、倫理文化に関する専門的研究など、多様な研究成果を発信しました。

通巻	発行部数
第27号	1550部

家庭倫理の普及

平成30年度の生涯局は「倫理」を基軸とする健全な家庭づくりを力強く推進し、柔軟かつ堅固な組織となるよう、会員が「倫理」を正しく学び、実践する道筋の再構築に努めました。



平成29年12月に開催された「子育て正副委員長研修」に389名が参加。子育て世代の絆を強化し、社会貢献へつなげることを誓い合った

家庭倫理の会は「家庭倫理講演会」と「子育てセミナー」を連動させ、健全な家庭づくりと地域社会の教育力向上・発展に貢献しました。未来を担う青年と子育て世代にプロジェクトチームを結成し、人材の発掘・育成に力を入れたほか、「子育て発表大会」「シニア弁論大会」の開催などを通して、各世代を倫理でつなぎ、ゆるぎない倫理実践の基盤づくりを推進しました。

家庭倫理講演会

「ともに生きる」をテーマに、全国の家庭倫理の会で開催（後援／文部科学省）。揺るぎない家族の絆を育むための夫婦・親子のあり方を、具体的な実践や体験を交えて提言しました。

開催会場	189カ所
参加者数	5万5258名



子育てセミナー

各家庭倫理の会において①妊産婦②乳幼児期の子を持つ親③児童期の子を持つ親④思春期の子を持つ親を対象に開催し、子育てに悩む若い父母層への純粋倫理の普及に努めました。また、お世話役である子育て正副委員長の研修会を平成29年

12月に開催し、若手人材の育成に努めながら、子育てセミナー開催への意欲を高めました。

開催回数	1668回
参加者数	1万3729名



子供倫理塾

各家庭倫理の会において小学生を対象に開催、純粋倫理についてやさしく解説するとともに、挨拶や後始末など「5アクト」の実践を奨励し、純粋倫理を基本とした生活習慣を学びました。

開催回数	822回
参加者数	5296名

シニア弁論大会

シニア世代が豊富な人生経験と、純粋倫理の学びと実践により培った信念を披歴し、各世代を倫理でつなぐことをめざして、家庭倫理の会単位または県単位で開催しました。

開催回数	18回
参加者数	2792名

純粋倫理基礎講座

全国の家庭倫理の会会員を対象に年間6回開催しました。純粋倫理の基本をテキストに基づいて学習し、理解を深めるとともに実践意欲を高めました。

開催回数	1242回
参加者数	3万1658名

開催会場	508カ所
参加者数	185万9635名

おはよう倫理塾

毎朝5時より全国各地で開催し、幅広い年齢層が参加しました。参加者は純粋倫理の学習ならびに実践を通して豊かな人生を送るべく、相互研鑽、相互啓発に努めました。

青年活動

沙漠緑化の植林活動

平成30年4月29日～5月5日、中国・内モン自治区恩格貝クブチ沙漠で植林活動を行いました。日本から35名の青年が参加し、中国からも7大学68名の大学生が参加。スタッフを含む総勢110名が地球倫理の実践活動として植林を行いました。また、「私の家族」をテーマに日中青年混合でグループトークを開催し、国や文化を越えて家族の大切さを確認。両国の青年の絆を深めました。（関連記事4頁）

青年フォーラム

平成30年6月から7月にかけて、「ひらく明日の私へ」をテーマに、全国4カ所で開催（後援／文部科学省）。青年実行委員が中心となって大会を運営しました。青年による弁論発表に加え、小学生の作文発表、青年によるダンスや活動紹介など、地域毎に特色を前面に押し出したプログラムで盛況を呈しました。

開催日	開催会場	参加者数
6月10日	南風原町立中央公民館黄金ホール（沖縄）	420
7月8日	大阪ビジネスパーク円形ホール（大阪）	479
7月15日	くまもと森都心プラザ（熊本）	502
7月29日	ニッショーホール（東京）	574
合計	全国4カ所	1,975



企業倫理の普及

平成30年度の法人局は、大目標である会員企業数10万社にふさわしい組織体制の構築をめざし、「地球倫理の推進」「日本創生」を旗印に、倫理経営の堅実な普及・教育に努めました。



全国で開催し、毎年好評を博している「倫理経営講演会」。倫理経営の重要性を各地域にアピールし、多くの経営者の賛同を得た。

倫理法人会は「堅実な普及活動による確実な成果」を実現するため、純粋倫理の学習の場である「経営者モーニングセミナー」や各種研修・セミナーの活性化を図るとともに、倫理経営インストラクターの基礎教育を徹底するなど、倫理経営を真摯に伝える人材の育成に力を注ぎました。また、海外普及を含め新たな拠点づくりを推進しました。

倫理経営講演会

「大転換の時代―つねに活路あり―」をテーマに、平成30年1月～5月にかけて全国の倫理法人会で開催しました。事業体験報告や朝礼実演を交え、倫理経営の重要性や、職場に英気と活力をもたらす朝礼の必要性をアピールし、多くの経営者の賛同を得ました。

開催会場	686カ所
参加者数	7万4691名



経営者モーニングセミナー

毎週1回、早朝に全国の市・区単位の倫理法人会で開催しました。参加者は朝型の生活習慣を体得するとともに、各界で活躍する講師の体験談などを聴講し、企業を健全な繁栄へと導く倫理経営についての学びを深めました。また、会員同士の交流

や情報交換も盛んに行なわれました。

開催回数	3万4205回
参加者数	94万4761名

職場朝礼の推進

よりよい社風づくりと社員の資質向上をめざして、活力溢れる職場朝礼を推進しました。朝礼用のテキストである『職場の教養』を毎月200万部発行したほか、朝礼研修に力を注ぎ、朝礼実施企業の増大を図りました。

朝礼研修実施回数	145回
参加者数	2453名



後継者倫理塾

企業の未来を担う後継者の育成を目的に開催しました。純粋倫理の学習と実践を通して、よりよい生活習慣と豊かな人間性、真のリーダーシップを備えた将来の経営者の養成に力を注ぎました。



開催地	茨城・新潟・長野・埼玉・千葉・東京・神奈川・石川・大阪・福岡・沖縄
開催回数	年間7～11回
修了者数	117名

経営者の集い

業態により「経営者モーニングセ

ミナー」に参加できない会員や、新規入会者、入会を希望する経営者を対象に、純粋倫理の学びを深める勉強会を各倫理法人会で開催しました。

開催回数	1610回
参加者数	2万4485名

講師・幹部の養成

純粋倫理の深い理解と実践力の強化・向上のために、役職者およびその候補者を対象に、継続して「倫理経営基礎講座」を各会で実施しました。また、「経営者の集い」「倫理経



営講演会」における事業体験報告者の話力向上のため「事業体験報告者研修」を開催。さらに、倫理経営インストラクター制度の改革に取り組み、「倫理経営インストラクター研修」を富士教育センターで開催するなど、講師陣の指導力向上に努めました。

開催回数	2回
参加者数	195名

事業体験報告者研修

開催回数	2回
参加者数	125名

「倫理17000」

真に地域社会へ貢献し、倫理経営を顕著に推進している企業を認定するライセンス制度として平成16年からスタート。平成30年度は新たに13社を認定し、33社の更新審査を実施、認定証を授与しました。

認定企業数	183社
-------	------



RINRI 17000

書道や短歌などの文化活動



小学校で行なわれた「短歌出前授業」で、子供たちは熱心に短歌づくりを学んだ

秋津書道会

手本の学習や古典臨書による捨我の実践と、『自分の言葉を書く』作品づくりにより個性の発揚に力を入れるなど、書道による実践を通して、純粹倫理の学びを深め、生活の浄化と倫理普及に取り組みました。また、地域の公共施設を会場とした書道展や「初めての書道教室」など



を開催して、会員に限らず広く参加者を募り活動の輪を拡げました。

会員数	4374名
会場数	278支苑
月刊誌『秋津書道』年間出品者総数	2万9752名

しきなみ短歌会

短歌を詠む実践を通して、純粹倫理の学びを深め、生活の浄化と個性の発揚をめざすとともに、倫理普及に取り組みました。また、地域の小中学校における「短歌教室」のボランティアや公共施設で開催する「初めての短歌教室」を通して、地域の教育力向上に貢献しました。月刊誌『しきなみ』は、年間出詠者総数が短歌結社誌では17年連続で最多となりました。

会員数	5984名
会場数	356支苑
月刊誌『しきなみ』年間出詠者総数	6万4956名

台湾

「中華民国倫理研究学会」へ定期的に講師を派遣し、普及活動・幹事教育・組織運営を支援しました。また、「亜細亜台湾企業倫理促進会」では組織的な自立に向けた支援のほか、倫理経営の模範企業の育成に取り組み、「台湾KISS ME化粧品」へ第1号の「倫理経営模範企業認定証」を授与しました。

アメリカ

「南カリフォルニア倫理の会」へ計画的に講師を派遣し、組織運営の強化と普及力の向上をめざすとともに、書道・短歌の文化活動を支援しました。「南カリフォルニア倫理法人会」へ講師を派遣し、組織運営の安定化と普及力向上を支援するとともに、海岸清掃などを通して地球倫理の意識の昂揚を図りました。平成29年9月に「オレレンジカウンティ倫理法人会」を設立。組織運営と普及活動を支援しました。「ニューヨーク倫理友の会」は、

ニューヨークを拠点に日米文化交流事業を推進し、国際的な倫理情報の発信に努めました。そのほか、邦字新聞『ニューヨークBIZ』に、毎週「倫理経営」に関する記事3頁を掲載。ニューヨークを中心に全米の日系人に倫理経営をアピールしました。

ブラジル

「ブラジル倫理の会」へ計画的に講師を派遣し、組織運営と普及力の強化を図るとともに、文化活動を支援しました。平成29年11月に「サンパウロ倫理法人会」を設立。組織運営と普及活動を支援しました。

中国

「倫理研究所中国事務所」（北京）を拠点に、中国社会科学院応用倫理研究センターをはじめ、諸機関とタイアップしながら倫理普及と学術交流を推進しました。また、平成29年11月に「日中倫理交流30周年の集い」を北京で開催しました。

海外の普及

海外組織の育成ならびに国情に応じた倫理普及を展開し、「アジア（世界）のタグボート」として倫理道德意識の昂揚に寄与しました。



平成30年4月に倫理研究所を表敬訪問した中華民国倫理研究学会訪日団。訪問に先立ち、許欽薫理事長を団長とする19名は、富士教育センターのセミナーを受講。家庭倫理の会墨田区の「おはよう倫理塾」にも参加し交流を深めた



「小学生親子セミナー」では、豊かな自然環境を最大限に活かした施設で、子供たちは伸び伸びと倫理を学んだ

倫理を学ぶ 多彩なセミナー

会員対象セミナー

生活倫理相談士セミナー

生活倫理相談士を対象に開催しました。相談士としての使命を喚起しつつ、自己の課題に取り組む実習を行いました。

参加者数 (4組) 405名

生活倫理セミナー

「まごころをこめる」をメインテーマに掲げ、「まごころ実践20」のセルフチェックを基軸に、実践時の心に焦点を当てた講座・実習を展開しました。

参加者数 (7組) 747名



特別セミナー

創立70周年および創始者生誕120年を記念して制作した映像全8章の鑑賞と解説をメインに、倫理運動の草創期とその時代背景を史実に基づき学修しました。

参加者数 (2組) 210名

企業倫理セミナー

経営者倫理セミナー

集団行動を通じてチームワークの形成と徹底した自己凝視を図りました。年齢やキャリアを脱して行なう相互研鑽とケーススタディから、倫理経営の実践力向上をめざして講座・実習を展開しました。初参加者

富士山麓の自然豊かな富士高原研修所において、家庭倫理の会の会員を対象とした「生活倫理セミナー」、倫理法人会の会員企業の経営者や社員を対象とした「企業倫理セミナー」、小学生と保護者を対象とした「小学生親子セミナー」など、各種セミナーを開催しました。平成30年度は、4412名の受講者が純粋倫理の学びを深め、実践力の向上を図りました。

青少年育成セミナー

小学生親子セミナー

小学生は「学び・遊び・躰」、保護者は「こどもを信じる」をテーマに学修しました。富士山トレッキングをはじめとする親子で行なう実習や、施設周辺の豊かな自然環境の中で伸び伸びと過ごしながら、子供の自立心や協調性を養う実習を行いました。(平成30年7～8月開催)

参加者数 (6組) 244名

中学生・高校生セミナー

中学生と高校生を対象に、講義のほかに富士宝永登山やチーム創作発表会(即興芝居)などの実習を通して、あきらめずに挑戦することや自分の意思をはっきり相手に伝えること、どんな人とも協力し合う心の大切さなどを体験的に学修しました。(平成30年8月開催)

参加者数 68名(中学生37・高校生31)



が受講者数の半数を占めました。

参加者数 (9組) 1044名



社員倫理セミナー

幹部社員・一般社員を対象に、社内における「活力朝礼」の積極的な運営方法や、日常業務の改善・向上の原動力となる恩意識の深化を主軸に講座と実習を展開しました。

参加者数 (6組) 274名

新入社員倫理セミナー

社会人として第一歩を踏み出すために、挨拶や後始末などの日常生活

での基本動作の体得をめざしながら、チームワーク向上を体感する講義・実習などを通して、参加者の活力を引き出すとともに学生気分の一掃を図りました。

参加者数 (3組) 315名

自主企画セミナー

国内外の倫理法人会会員企業が、1社単独で企画・実施できるセミナーを11組開催しました。いずれも日常の業務における処理力の向上と改善に直結するプログラムを実施しました。

参加者数 (11組) 460名



出版物の刊行

倫理運動の普及推進に資する出版物の刊行を
各部門と連携して行ないました。

定期刊行物

月刊誌

『新世』

生涯学習総合誌として、夫婦、親子、嫁姑、職場の人間関係を円滑にし、より良く生きるヒントとなる記事を掲載。各世代の読者層に純粋倫理をアピールしました。

人生の指針となる丸山理事長の巻頭論文「新世言」、『万人幸福の葉』十七カ条を基盤とした「明日へのエール」、子女名優の視点による「わくわく子育て親育ち」、次世代に残したい全国各地の伝統や文化をカラーで紹介する「美しきあきつしま」などのレギュラー記事のほか、毎号の「特集」では、社会の時流



に添ったテーマを取り上げました。「実践の軌跡」では、主に子育て、疾病、夫婦関係、職場の人間関係、事業経営に関する手記を掲載し、それぞれに解説を加えました。

通巻	840号～851号
発行部数	194万5700部

『倫理』

純粋倫理の基礎的・専門的研究、倫理文化の専門的研究に関する諸論考を掲載しました。(関連記事13頁)

通巻	777号～788号
発行部数	8万4850部



『倫理研究所紀要』(年刊誌)
純粋倫理の基礎的・専門的研究

倫理文化に関する専門的研究など、多様な研究成果を発信しました。(関連記事13頁)

通巻	第27号
発行部数	1550部



『職場の教養』

多岐にわたる話題・事例を題材として、職場人としての行動指針を提示しました。朝礼での活用を通じて自己を見つめ直し、職場や家庭で実行できるよう、分かりやすい文章表現に留意しました。

通巻	501号～512号
発行部数	2425万部



『秋津書道』

「秋津書道会」の創設者・丸山敏雄の書を学ぶ会員の相互研鑽の場として、初心者から上級者まで各々の書境向上に資する内容の提供に努めました。

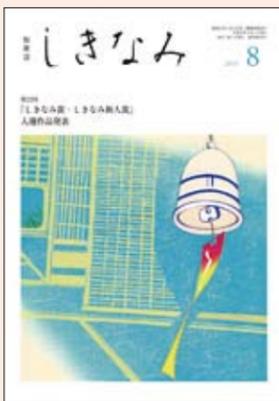
通巻	776号～787号
発行部数	6万6350部



『しきなみ』

短歌を通して純粋倫理の体得をめぐす「しきなみ短歌会」会員の毎月の作品発表の場として、歌境向上に資する内容の提供に努めました。出詠者数6400名の短歌誌です。

通巻	858号～869号
発行部数	8万5000部



隔月刊誌

『倫理ネットワーク』

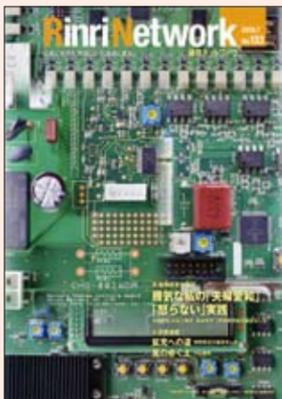
倫理法人会会員各位が、事業経営および倫理法人会活動において高い意識を維持できるよう、倫理経営の要点を学ぶテキストや法人局の方針と連動した記事を掲載しました。

通巻	128号～139号
発行部数	57万1000部

月刊紙

『倫研新報』

倫理研究所の主要事業・行事および、全国の家庭倫理の会、倫理法人会、海外の活動の報告記事を掲載しました。主な記事としては、「家庭倫理講演会」「おはよう倫理塾」「子育て正副委員長研修」「子育てセミナー」などの家庭倫理の会の諸行事や、会員社数全国7万社達成に向けた倫理法人会の諸活動、オレンジカウンティ、サンパウロ倫理法人会設



書籍

新刊本

『ともに生きる』 丸山敏秋著

月刊誌『新世』連載の「新世言」の中から33篇を抜粋し、夫婦、親子、家族をはじめ、地域や社会と人と人がつながるためのヒントを示しました。(家庭倫理講演会・倫理経営講演会推薦図書)

通巻	722号～733号
発行部数	149万9500部

立記念式典、台湾で行なわれた役職者研修と企業倫理講座などを紹介。対外活動としては、沙漠緑化活動や「倫理研究フォーラム」「第13回しきなみ子供短歌コンクール表彰式」「第21回地球倫理推進賞贈呈式」「りんりん基金奨学生レポート」などを紹介しました。



『親が変わる 子供も変わる』 倫理研究所編

倫理Q&Aシリーズとして、幼児から小中学生の子を持つ親の相談(計24本)について、『万人幸福の葉』第6条「子女名優」を核に回答しています。

(家庭倫理講演会推薦図書)



会員の構成

会員は倫理研究所の趣旨に賛同し、倫理運動に参加する意志のある個人と法人によって構成されています。個人会員の組織を「家庭倫理の会」、法人会員の組織を「倫理法人会」と称します。ほかに文化芸術活動を行なう「秋津書道会」「しきなみ短歌会」があります。

会員数(公称/2018年8月末現在)

家庭倫理の会	150,000名
倫理法人会	67,000社
秋津書道会	4,300名
しきなみ短歌会	6,000名

会費(月額)

個人	500円
賛助	1,000円
協賛	3,000円
特別賛助	10,000円
法人	10,000円(1口)

秋津 会員	1,500円
// (ジュニア会員)	800円
しきなみ 会員	1,000円
// (ジュニア会員)	500円

組織概要

名称 一般社団法人倫理研究所
 英文名称 RINRI Institute of Ethics
 理事長 丸山敏秋
 常任理事 前川朋廣/徳江秀雄/内田文朗
 理事 11名
 監事 2名
 職員 151名
 所在地 〒102-8561 東京都千代田区紀尾井町4-5
 TEL 03-3264-2251 FAX 03-3239-7431
 創立 1945年9月3日(倫理運動創始の日)
 1948年10月30日に社団法人設立許可
 2013年9月2日に一般社団法人へ移行
 目的 倫理の研究並びに実践普及により、生活の改善、道義の昂揚、文化の発展を図り、もって民族の繁栄と人類の平和に資する。
 事業 1. 社会教育事業
 2. 研究事業
 3. 出版・広報事業
 4. 文化事業
 5. 地球倫理推進事業
 ホームページ <https://www.rinri-jpn.or.jp>

組織概要

創始者・丸山敏雄

1892(明治25)年5月5日、福岡県豊前市生まれ。広島高等師範学校を卒業し、師範学校などの教諭として奉職。37歳で広島文理科大学に入学。日本の精神文化、歴史を探究するとともに、書道や短歌など芸術分野でも研鑽を積む。1938(昭和13)年に「秋津書道院」、1946(昭和21)年に「しきなみ短歌会」を創設。さらに、長年にわたる宗教や道徳などの研究を土台に、自らの実践、体験を積み上げながら、「人間生活のすじみち」を研究し続け、それを純粋倫理と名づけた。その後、数多くの論文を発表しながら純粋倫理を体系づけることに力を注ぐ。

1945(昭和20)年に倫理運動を興し、翌年、「新世文化研究所」(現・倫理研究所)を創立。自ら陣頭に立ち、一人でも多くの人に純粋倫理を伝えるべく、教育や講演、研究、執筆に身命を賭す。『万人幸福の栞』『無痛安産の書』『人類の朝光』など著書多数(すべて新世書房刊)。

1951(昭和26)年12月14日逝去。



新装丁版
『万人幸福の栞』(小判)
 丸山敏雄著
 表紙を黒からキャメル、ピンク、ローズ、パールホワイト、ソフトブラックの5色に刷新し、総ルビ(振り仮名)を改め、独特の読み方や読みにくい漢字にのみルビを振りました。また、表紙を開いたところに、斉唱用として十七カ条のペー지를設けました。



手帳・カレンダー
『実践手帳2019』
 丸山敏雄著
 新作の「爽やかなグリーン」ともに昨年度に引き続き「華やかなピンク」(表紙デザインは変更)を発売。週間予定の上部には、既刊書籍より、純粋倫理のエッセンスをセレクトして掲載しました。
 販売部数 1万595部



「2019 標語カレンダー」
『今日の道しるべ』
 31日分の標語とワンポイントアドバイスで、毎日の倫理実践を促しました。
 販売部数 15万1863部

沿革

- 1945年 丸山敏雄、論文「夫婦道」起稿。倫理運動を創始。
- 1946年 「新世文化研究所」設立(初代所長、丸山敏雄)。
- 1947年 「新世会」設立。
- 1948年 「新世会」が社団法人の許可を受ける。
- 1949年 「朝の集い」開始(上野、神田、銀座、市川)。
- 1951年 「新世会」を「倫理研究所」と改称。丸山敏雄逝去。丸山竹秋、理事長に就任。
- 1966年 富士高原研修所竣工。
- 1967年 中日支所設立、支所体制がスタート。
- 1973年 アメリカ・ロサンゼルスに拠点開設。
- 1980年 千葉県に第1号の倫理法人会発足。
- 1985年 丸山竹秋が「地球倫理の推進」を提唱(創立40周年記念大会にて)。
- 1986年 中華民国(台湾台中市)に拠点開設。
- 1987年 第1回日中実践倫理学討論会開催。
- 1989年 丸山竹秋、藍綬褒章受章、社会教育功労者表彰。
- 1990年 倫理法人会1万社達成記念大会開催。
- 1992年 丸山敏雄生誕100周年記念大会開催。
- 1995年 創立50周年記念大会開催。丸山竹秋が地球倫理推進の運動方針「アジアのタグボート」を発表。
- 1996年 丸山敏秋、理事長に就任。
- 1998年 第1回地球倫理推進賞贈呈式開催。倫理資料館竣工。
- 1999年 創立55周年記念中国クブチ沙漠「地球倫理の森」創成事業スタート。丸山竹秋逝去。
- 2000年 ブラジル・サンパウロに拠点開設。
- 2001年 新富士高原研修所グランドオープン。
- 2004年 個人会員組織を「支所」から「家庭倫理の会」に改称。「朝の集い」を「おはよう倫理塾」に改称。
- 2005年 創立60周年記念式典、青年フォーラム21全国大会開催。
- 2006年 第1回しなみ子供短歌コンクール表彰式開催。
- 2007年 倫理法人会5万社達成記念大会開催。
- 2008年 第1回日中青年沙漠緑化交流開催。
- 2009年 「地球倫理の森」創成10周年記念大会開催。
- 2010年 日中実践倫理学討論会2010開催。
- 2011年 富士教育センターオープン45周年記念式典開催。グランドデザイン完成。
- 2013年 一般社団法人へ移行。
- 2014年 教育再生フォーラム、地球倫理の森創成15周年記念式典開催。長年の沙漠緑化活動が「第6回中国環境発展要人フォーラム」で表彰される。
- 2015年 「地球倫理の森ウランブハ」創成事業スタート。教育創生フォーラム開催。創立70周年記念全国青年弁論大会、日本創生フォーラム開催。
- 2016年 倫理法人会全国代表者大会開催。台湾に亜細亜台湾企業倫理促進会設立。本部移転。南カリフォルニア倫理法人会設立。富士教育センター開設50周年記念式典開催。
- 2017年 オレンジカウンティ倫理法人会設立。サンパウロ倫理法人会設立。

主要施設



倫理研究所(本部)

倫理運動推進の本部として、研究・普及・教育・企画・出版・広報などの各種業務を行なっています。

〒102-8561
東京都千代田区紀尾井町4-5

富士教育センター

純粋倫理の理論的・実践的学習の場として、小学生から成人までを対象にした各種セミナーを行なっています。センター内には、富士高原研修所・富士倫理学苑・富士万葉植物園・丸山敏雄記念館があります。

〒412-0008
静岡県御殿場市印野1383-9



天和会館

倫理運動の創始者・丸山敏雄の家(2006年復元)に隣接した会館。主に倫理研究所の研修施設として活用されています。

〒828-0081
福岡県豊前市大字天和392

倫理資料館

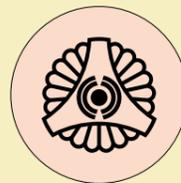
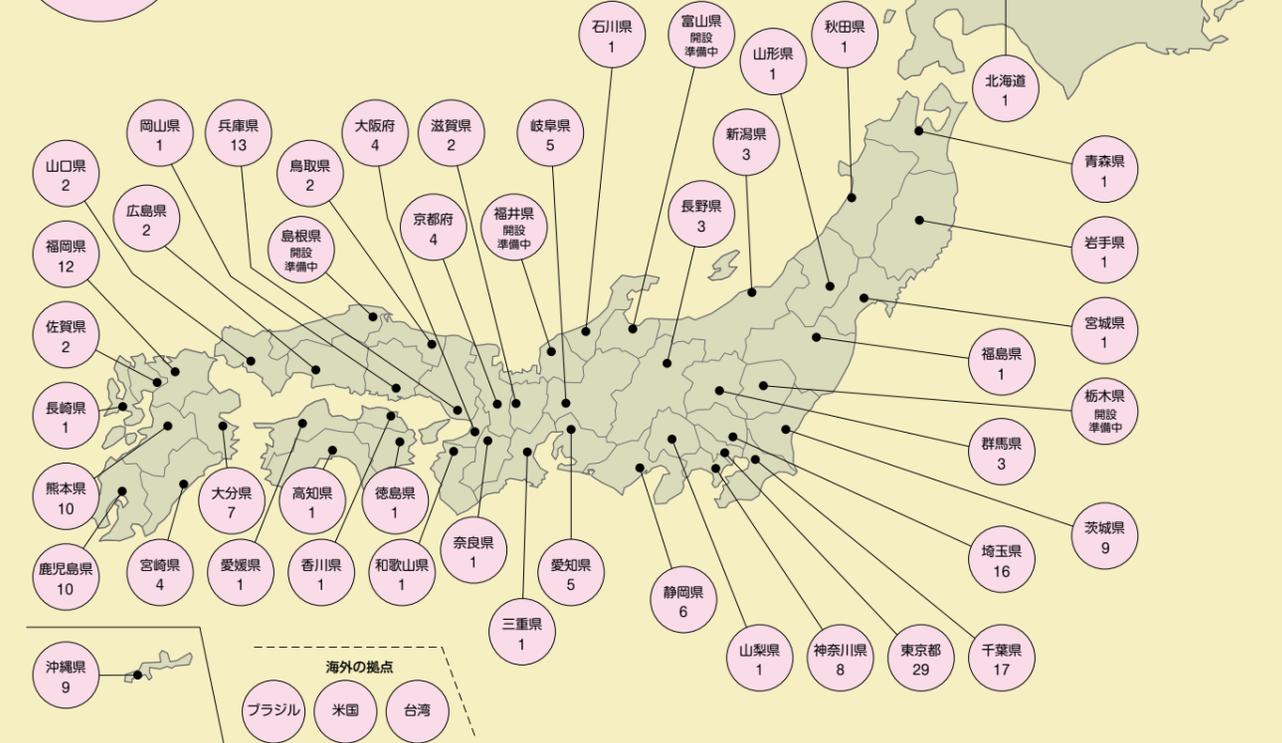
創始者の遺品・遺墨、倫理・道徳に関する専門図書のほか、倫理運動史料や記録などの蒐集・保存整理を行なっています。

〒180-0022
東京都武蔵野市境5-6-25



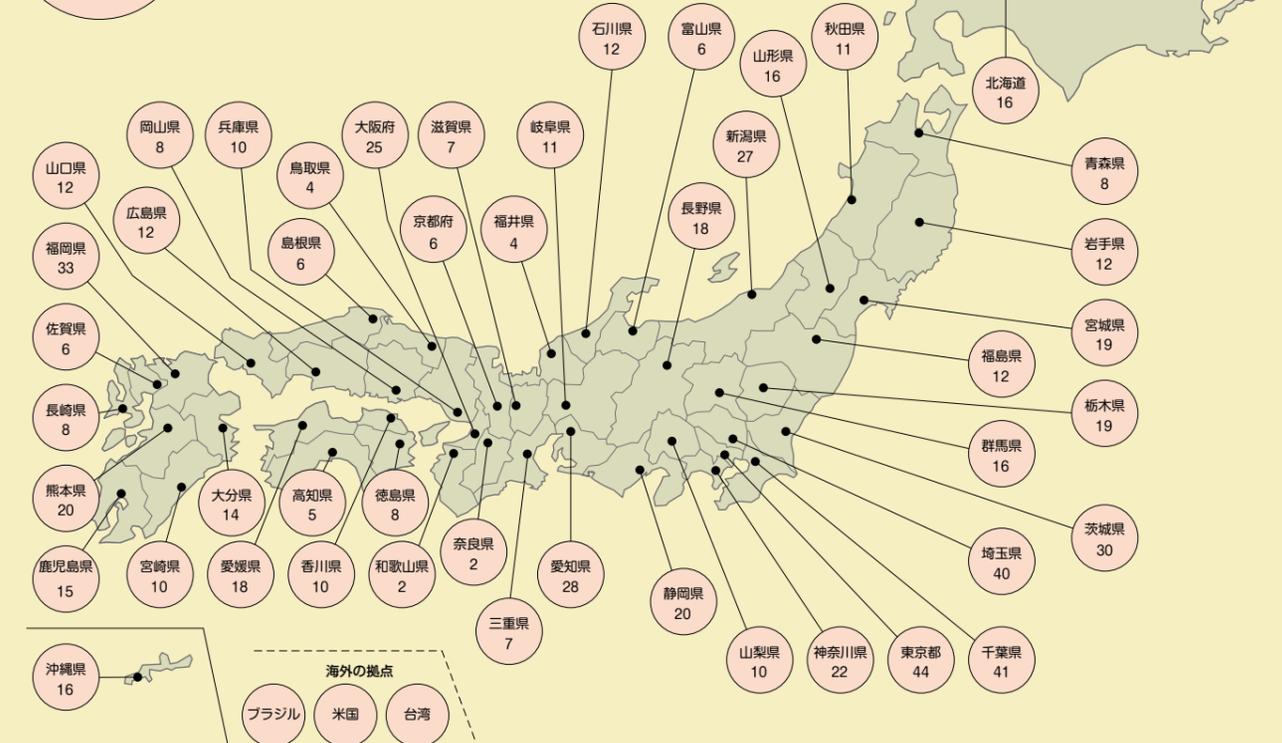
都道府県別拠点数(2018年8月末現在)

日本全国に205の家庭倫理の会があります。



都道府県別拠点数(2018年8月末現在)

日本全国に706の倫理法人会があります。





一般社団法人 倫理研究所

〒102-8561 東京都千代田区紀尾井町4-5 TEL 03-3264-2251
ホームページ <https://www.rinri-jpn.or.jp>

発行：一般社団法人倫理研究所 編集：倫理研究所総務部 発行日：2018.11.22